

BAOBAB



セネガル青年海外協力隊隊員機関紙

2019 年度

Vol.68

平成から令和へ。

青年海外協力隊から JICA 海外協力隊へ。

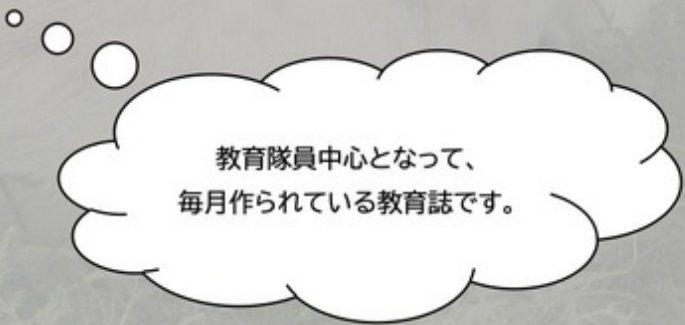
世の中は常に変化していきます。その波に揉まれながら、この異国の地セネガルで活動している皆様にとって少しでも読んでいて楽しい、役に立った、という雑誌になることができれば幸いです。

2020年1月 バオバブ編集委員一同



BAOBAB 第 68 号 目次

- 2 任地紹介
- 22 隊員活動紹介
- 30 ナマズの里から
- 32 零細漁業の現場から
- 36 どの進路に進むのだろうか
- 42 セネガルの結婚式、これってどうなってるの？
- 46 ゴレ島遠泳に挑んだ 7 人の有志に迫る
- 48 ゴレ遠泳 3 つの注意事項
- 49 セネガルの印象的な出来事
- 50 セネガルのお土産
- 56 モロッコ旅行記
- 60 ぶっぐなーはれい



教育隊員中心となって、
毎月作られている教育誌です。

Dahra Djoloff ダーハンモロン

○ダカールから

・約二二〇km

・7places(高速利用)またはテムディック(Demm Dikk)で

約四、五時間

○近くのまち

・トゥーバ(Touba)まで車で約一時間半

○このまちでこんなものが見られます、買えます、

食べられます、作れます！

・遊牧民族であるフル族が多いダーラジヨロフでは、乳製品の生産も盛んに行われている。どこの任地でも食べられるヨーグルトの他に、ダーラフではチーズも購入することができる。素朴な味で食べれば食べるほど癖になる味。大ききによって値段は異なるが、一〇〇〇FCFA〜三〇〇〇FCFAで販売されている。常に購入できるわけではないので、見つけたらラッキー！



・フル族のフドゥン(Foudeun)と呼ばれるヘナタトゥー。フドゥンを施してくれるセネガル人のお宅へ伺い、模様を作つてその上に植物由来の粘土のようなものをのせて待つこと二、三時間。水で洗えば直線的な幾何学模様が綺麗に現れてくる。もし一泊以上ダーラに滞在するようならば、一度経験してみても良いかも？！セネガル人からのウケも良く、個人差もあるが一か月ほどもつ。



・セネガルでラクダに乗れるツアーもあるようだが、運が良いとダーラジヨロフでも野生のラクダを見ることが出来る。ただし、警戒心の強いラクダは近づこうとすると危険である。そのため程よい距離感を保ちながら観察、また撮影することをおすすめする。ちなみにこの写真は近づきすぎてラクダが警戒心丸出しの一枚である。



Dakar ダカール

〇このまちでこんなものが見られます、買えます、

食べられます、作れます！

・ダカールの中心地から9kmほどいくと、ピキン(Pikine)というまちに入ります。ピキンは決して治安が良いとは言えないごみごみしたまちですが、現在卓球隊員として活動する隊員の活動先であるセネガルで最も大きなスタジアム、スタッドレオポールセダルサンゴール(Stade Léopold Sédar Senghor)が位置します。グランヨフ(Grand Yoff)の北側に位



置するこのスタジアムでは、サッカー、陸上、バドミントン、卓球などたくさんスポーツが行われており、大盛り上がるの歓声が聞こえてきます。利用するには関係者の持つカードを提示する必要がありますが、隊員と一緒に入れば見学はできるので、ぜひお越しください。



アフリカ・ルネサンスの像 (Le Monument de la Renaissance africaine)

「西アフリカの国に観光客を惹きつける公共記念碑が欲しい」というワツェ(Wade)前大統領の構想のもと、二〇〇六年に北朝鮮企業によって建設された。ニューヨークの自由の女神、リオデジャネイロのキリスト像よりも高い。内部にある展望台には三〇〇ECHAで入場できる。

アルマディ岬 (Pointe des Almadies)

アフリカ大陸最西端(北緯 14 度 44 分 27 秒、西経 17 度 31 分 48 秒)に位置する岬。手前には東京(表記は TOKIO)を含めパリやシドニー、ヨハネスブルクなど世界の有名都市までの距離が表示された看板がある。絶好のインスタスポットだが、管理していたホテルが潰れたらしく現在は無料では入れない。

Dioffior ジョフィオール

○ダカールから

・約一四〇㎞

・7places 7日時間

○近くのまち

・フィルムラ(Fimela)まで7km、乗り合いタクシーで一〇分

○このまちでこんなものが見られます、買えます、

食べられます、作れます！

・隣のフィルムラは小さなリゾート地で、ビー

チヤレストランがあります。レストラン

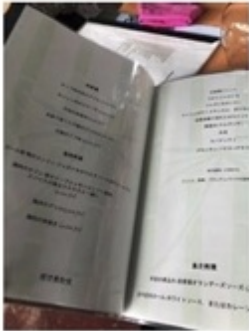
Miam Miam には、隊員が翻訳した日本語

メニューがあるので、分かりやすく、新しい

メニューにもチ

ヤレンジしやす

くなっています。



・フィルムラは、カシューナッツが特
産品です。この量で、一袋何と五
〇〇CFCA。フィルムラに来た際
は、お土産にぜひ！



・水が夜中にしか出ないジョフィオール。あまり出番がない蛇口た
ちは横を向いています。



Fatick ファティック

○ダカールから

・二二〇km

・テムティックまたは7placesで三、四時間

○近くのまち

・カオラックまで7placesで約一時間

・サリーまで7placesで約一時間

○このまちでこんなものが見られます、買えます、

食べられます、作れます！

・おいしいエビや、セネガルではなかなか買えない豚肉が手に入ります！



・マッキーサル大統領の出身地であるため、みんな大統領が大好きで、誇りに思っています。彼の通っていた学校や実家もあります。(下写真はサル大統領の新居)

・ファティックの名テイラー、オマールさん！作りたい服の写真を見せればその通りに作ってくれる凄腕の持ち主です。他の任地の隊員もわざわざ足を運んで頼みに来るほどの腕前です！友人や自分へのお土産を頼む時などにもおすすめです。



Gandiaye ガンジャイ

○ダカールから

・一七〇km、約四時間

・ファティックまでテムディック、ファティックから7places

○このまちでこんなものが見られます、買えます、

食べられます、作れます！

・ガンジャイは半日で歩いて回り
きれてしまうほど小さい静かな
田舎町です。家を出れば、たくさ
んの動物(下写真)、木陰でおしゃ
べりを楽しむ人々、アタヤ片手に
談笑している商店の人、元氣よく
遊ぶ子どもたちの姿を見ること
ができます。まっしぐら Jamn
LeKk な空気を堪能できること
もすてきな場所です。



・国道のちかくに小さなマルシェがあり(下写真)、野菜や魚、肉など

が手に入ります。ちょっとし
た日用品も売っているので、
とても田舎ですが日常生活
を送る分にはガンジャイで案
外事足ります。ガンジャイで
の娯楽は、美味しいンデッキ
屋さんでンデッキ(セネガル
人の主な朝食、サンドイッチ
のようなもの)片手におしゃ
べりすること(左下写真)。ゆつくりと流
れる時間を楽しむことができます。

観光名所はまったくありませんが、田舎
でまったり癒されたい方にはとてもおす
すめのまちです！



Gossas 'ゴサス

○ダカルから

約一五〇km

・ジュールベルまでテムディックで約二時間、ジュールベルから乗り合
いバスで約一時間

○このまちでこんなものが見られます、買えます、

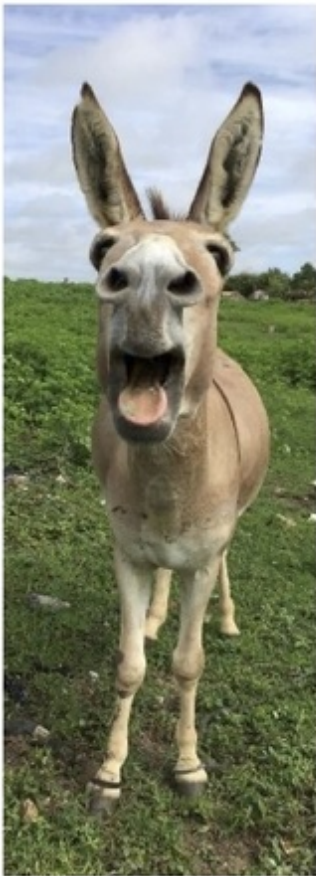
食べられます、作れます！

・特出したものはありませんが、動物と虫はたくさんいます。至るところに「カーズ」があり、セネガルの伝統的な文化に触れることができます。ちなみに、カオラックとジュールベルを結ぶ国道沿いにあり、「通ったことはあるけど、降りたことはない」といわれているのがゴサスです。



↑カーズ

↓週に一度のルーマ
(移動市)



ゴサスで出会える
動物たち



Guiné-Bissau ギンビギネオ

○ダカールから

・約二二〇km、7placesで約五時間

○このまちでこんなものが見られます、買えます、

食べられます、作れます！

・現在ギンビギネオで活動する隊員の家の目の前に広がる景色(下写真)。いつも何かしらの動物が通過するのが当たり前。



道を歩けば「カーイー！カーイー！」。みんなでわちゃわちゃ食べるセネガルスタイル。家によって味付けが違うのも、またおもしろいところ！「今日は誰のおうちにおじゃましようかな」とはいつもの毎日です(笑)



・毎週水曜日だけの移動市「ルーマ」。いつもは静かなまち並みが、この日だけ違うまちにきたかのような賑わいに。お店の人との値段交渉もたのしみの一つ。



・セネガル版『となりのトトロ』。「これ、メイのもん！」と言わんばかりのモロ「シシヨットー！」
「カーイー！カーイー！」と呼ばれ、木の下でゆるい時間を過ごす、セネガル人のおしゃべりもまたたのしみの一つです。



Kaolack カオラック

○ダカールから

・約一六〇km

・テムディックで約四時間

○近くのまち

・トゥーバクータまで約六〇km

・タクシーで一時間半

○このまちでこんなものが見られます、買えます、

食べられます、作れます！

・village artisanal

カオラックのヴィラージュで以前隊員が活動していたこともあり、特に「RAFETNA」っていうお店には、可愛いバッグなど日本人好みの物がたくさん。自分好みの布を持っていけば、値段も安く作ってくれます。



・Marché central au poisson de Kaolack

日本が立てた魚市場。規模が大きく、魚の種類も豊富。朝早く行けば、新鮮な魚も手に入るかも。

<Coopération entre le Japon et le Sénégal> の文字



Kaffrine カフリン

○ダカールから

・約三〇〇km

・7places ｾｯﾌﾟ、八時間

・デムディックで五、六時間

○このまちでこんなものが見られます、買えます、

食べられます、作れます！

・カフリンには目に見える「観光地」はありません。しかし、たくさんの村があります(下写真)。共用の井戸水を毎日汲んで生活している村、住民の八〇%が同じ名字の村、たくさんの家畜を飼育している村、食材を買うお金がなく、バハルサルム(カフリンの郷土料理、右写真)とチエレばかり食べている村。お昼時になると「カーイアニュー！ハーラルアニュー！」と、どこからともなく見知らぬ私たちに声をかけてくれます。貧困さは際立っていますが、ホスピタリティーの高さには驚きです。物質的に豊かな日本人が失いかけているものを、彼らは持っています。村によって言語や人柄、雰囲気異なります。村巡りこそカフリンの魅力、カフリンの「観光値」です。人に疲れた？都会に疲れた？ちよつくらのんびりしませんか？
“そうだ、カフリン、行こう。”



カフリン近郊の村々のようす



Kebe'mer ケベメール

○ダカールから

・約一五〇km

・7places 約二時間半

○近くのまち

・ロンプール(Lompoul) 約三〇km、7places 約三〇分

○このまちでこんなものが見られます、買えます、

・Harar National

ケベメールから車で一〇分のところに乗馬体験できるスポットがあります。実際にお金を払うと高いけれど、歴代の先輩隊員たちのおかげで無料で体験できちゃうかもー？インシャーラ。



食べられます、作れます！

・Kebe Sac

かつてケベメールで活動したコミュニティ開発の先輩隊員とケベメールの女性グループがタッグを組んで生まれた鞆、通称ケベサックのアトリ工。写真に写っているのはケベメールの日本人たちのママ的存在 Khadi さん。日本への帰国時にばらまき土産として買っていくのはどうですか？



・Lompoul

ケベメールには観光地にもなっているロンプールというまちがあります。ここには海と砂漠が近くにあり、バカンスに入ると現地の人も海外からも人がたくさん集まります。砂漠には綺麗なホテルがあり、ラクダや四駆の車に乗りながら砂漠をまわることができます。



Knombole ホンボル

○ダカールから

・約八五km

・7placesで約二時間

○近くのまち

・ティエスから約三〇km、乗り合いタクシーで四〇分

○このまちでこんなものが見られます、買えます、

食べられます、作れます！

・じっくりしたパン

を売っているパン

屋さんがありま

す。焼き立てがす

しくおいっこ。



・まちの周辺は農家が多く雨季になると、郊外は一面落花生畑になります。



・隊員がいつもセネガル服の仕立てをお願いしているセンスの光るテーラーさん。イメージしたデザインを汲み取ってつくってくれます。



・現在ホンボルで活動する隊員の趣味、ガラス絵。彼女の家にお邪魔すればガラス絵体験ができます。



Linguère リンゲール

○ダカールから

・約三〇〇km

・デムディック(月・木・土)で五時間、7placesで六、七時間

○このまちでこんなものが見られます、買えます、

食べられます、作れます！

・四五度の暑さ(五月、六月)
セネガル人からしても「暑い」リンゲール。最も気温の高い五月、六月には四〇度まで上がります。ヤギさんたちも日陰に避難です。



朝一番で見学ができる屠殺場

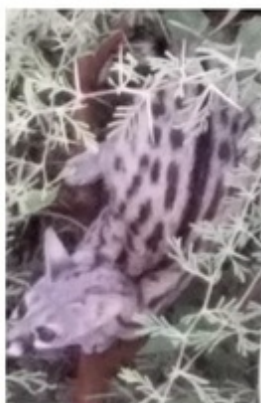


↑ JICA 調整員も御用達のリンゲール産ヨーグルト

↓ リンゲール近郊で遊牧生活を営むブラール族



週に一度の家畜市



・暑さとともに特徴としてあげられるのが動物です。まちの中ではヤギ、ヒツジ、ウマ、ロバを日常的に目にすることができ、彼らの存在は私たちの生活に密接に結びついています。夜にはハリネズミやウサギに出会うこともあります。隊員からは、ニフトリを襲いその頭を食べるというアフリカジャコウネコの目撃情報も(左下写真)。郊外では季節によってラクダを目にすることができます。

Longa ルーガ

○ダカールから

・約二〇〇km

・7places かテムティックで約四時間

○このまちでこんなものが見られます、買えます、

食べられます、作れます！

・ルーガのマップに、謎に包まれた大きな緑色の部分がある。塀で囲われている広大な敷地があり、水を供給するタワーが二つそびえ立つ(下写真)。敷地内には、数世帯の家族が住んでいる。植物がぎっしり生えそろっていて、まるでジャングルだ。深部には、多種のフルーツが栽培されている。バナナ、ココ



ナッツ、パイナップル、オレンジ、レモン、南国系のフルーツがずらり(上写真)。話を聞

くと、Dilly Mbaye(ジーンバイ)という大富豪の遺産だという。ルーガで農業を発展させ、名を馳せた。その証に、モスクや施設にジーンバイの名がつく場所が多数存在している。



ルーガ市には、南北に線路が通っている。そして街

のちょうど中央にルーガ駅がある。かつてはダカール〜サン・ルイ間を結ぶ鉄道の中継地として使われていたが、現在は廃線になっており、線路上には牛や山羊が、線路を挟むようにしてベッドなどの家具工房が軒を連ねている。廃屋となつてしまった駅舎は、こじんまりとしているが、レトロな雰囲気を残しており、誰でも自由に通り抜けられる。駅舎を東側に抜けると、正面には駅通り

(Rue de la Gare)が続いており、街で一番賑

わっているマルシェも目と鼻の先だ。



・マルシェの喧騒を抜けた小道にブーゲンビリアが咲き乱れている壁(上写真)がある。看板も何もないそこは、扉が無造作に空いていて、一歩そ

こに踏み入ると、やや広い空間に椅子が置かれている。ここはキリスト教徒が経営する BAR である。大勢のイスラム教徒から、やや隠れるように、ひっそりとしたここは昼間からお酒を飲むことができる数少ない場所である。足を運んだこの日も、数名のキリスト教徒が楽しげにお酒を飲んでいた。このBARでキリストの催事をする時、セネガルではなかなか見ることのない豚肉を食べることができぬ。



Mbacké ンバケ

○ダカールから

・一八六km

・テムディックで二時間半、7placesで四時間

○近くのまち

・トゥーバ(Touba)から約一時間

・ンバケ・トゥーバ(Mbacké-Touba)で約一五分



ンバケの町並み



○このまちでこんなものが見られます、買えます、

食べられます、作れます！

・トゥーバに行くと、イスラム教ムーリッド派が誇るグランドモスクを見ることができます。男性は長ズボン、女性は、ムソール(髪を隠すもの)とセネガル服(但し、スカートはスリットなし)をお願いします(を着ていただければ、お祈りの時間を除いて、いつでもモスク内に入ることができます。ガイドの方もいるので、歴史もわかります。(※ガイドさんによりますが、寄付を求められることもあります)

・セネガル中どこでも飲める「カフェトゥーバ」ですが、せっかくならトゥーバでカフェトゥーバを飲んでみませんか？まちの名前が入っているだけで、カフェに違いはありませんが、トゥーバで飲むとちよつと特別な気分になれるかもしれません。



Mbour N'bour

○ダカールから

・約八〇km

・乗り合いタクシーで一時間

○近くのまち

・サリー(Saly)まで乗り合いタクシーで北西へ約二〇分

・南へ乗り合いタクシーで約十五分のワラン(Warang)という村にリキュール工場があり、試飲をしながら購入可能

○このまちでこんなものが見られます、買えます、

食べられます、作れます！

・ンブールの漁港に行くと食べられるのが漁師メシ。ただただ魚を焼いただけのものが、そのシンプルさが美味しい！獲れたてをそのまま炭火で焼くので、鮮度はもちろん、港で食べる雰囲気も加わりしっとりふわふわの美味しい漁師メシが食べられます。



・国内屈指のお魚産地であるンブール。国民食であるチエブジエン(下写真)に入っている魚は生魚を使用している事が多いため、鮮度は抜群！チエーンスパー、オーシャン(Auchan)では運が良ければ刺身で食べられる鮮度のマグロが手に入ります(左下写真)！！セネガル一大きなオーシャンとの情報も！？セネガル広しと言え、マグロの切り身が買えるのはンブールだけでは！？



ノースしたいなら Bienvenue Mbour!!
ZARA(ZARA HOME も)あじまー

Nioro ニオロ

○ダカールから

・約二四〇km

・7placesで約四、五時間

○近くのまち

・ガンビアとの国境まで二七km

・セネガルとガンビアにまたがる世界文化遺産、「セネガンビアの環

状列石(Cercles mégalithiques de Sénégal)」(左上

写真)まで車で約一時間



ニオロの町並み

○このまちでこんなものが見られます、買えます、

食べられます、作れます！

・ニオロに入つてすぐEDKというガソリンスタンドがありますが(下写真)、いろいろまとめて購入できるのはそこだけ。あとは、ブティック、家具、金物屋、テイラー、パン屋などが道沿いにずらっと並んでいまます(左上写真)。



・現在活動中の隊員のカウンター

ーパートおすすめのレストラン

では、馴染みのセネガル料理がおしゃれに盛り付けられて登場。慣れ親しんだ料理も一味違うかも。



Saint-Louis サントルイ

○ダカールから

・約二七〇km

・7places、テムティックで約五時間

○近くのまち

・野生のペリカンやフラミンゴを見ることができる世界遺産

「ジュッジ鳥類国立公園」まで約七〇km

・乗用車で約一時間半

○このまちでこんなものが見られます、買えます、

食べられます、作れます！

・サン・ルイ発祥と言われているセネガルの国民食、チエブジエン。最も歴史あるチエブジエンの味が楽しめます。



・一八七二年から一九〇四年までフランス領西アフリカの首都の役割を担ったサントルイは、フランス統治時代の雰囲気を残しつつもイスラームの建築物が並ぶカラフルな街並みが特徴的。二〇〇〇年には世界遺産の仲間入りを果たした。



・パリのエッフェル塔を設計したグスタヴ・エッフェル(Gustave Eiffel)設計のフェデル(Faidherbe)橋(左下写真)。セネガル川をまたぎサントルイ島と本土を結ぶ。



Tambacounda タンバクンダ

○ダカールから

・約四〇〇km

・7placesで七〜九時間

○このまちでこんなものが見られます、買えます、

食べられます、作れます！

・タンバクンダと言えばほとんどの人が「暑い。」というように、乾季の暑さは厳しい都市です。プル民族が多く住んでおり、近隣国のマリなどから移り住んだ人も居ます。地方でありながら、市内は公共バス、電気、水道（一部地区では、井戸と併用）、常設のマルシェなどが揃っている都市です。しかし、一方で郊外には広い草原が広がり、アフリカらしいのどかな風景があります（下写真）。

・Village Artisanal

泥染め（ポゴラン）をしている職人さんが居り（左写真）、ポゴランの洋服など販売しています。タイミングによっては、ポゴランの作業を目にすることが出来ます。マルシェでは、藍染めのようなギニア布がよく売られています。



Thiès ティエス

○ダカールから

・約七〇km 乗り合いタクシーか 7places で約一時間半

○このまちでこんなものが見られます、買えます、

食べられます、作れます！

・アデシナ(下写真)

セネガルで活動する隊員みんなが通う語学学校。ここの修了生なら、先生たちがいつでも笑顔とおいしい昼食で迎えてくれます。懐かしのホームステイ先に行ってみると、自分の語学の成長に気付けるかもしれません。



・Village artisanal (左上写真)

工房兼お土産屋さんの集まる「職人村」。工芸品の質やデザインの良さに定評があります。マルシェからの距離、規模、接客のゆるさがかようにいい。ガラス絵工房では、製作体験もできます。乾燥に少し時間がかかるので天気の良い昼前から行くことをお勧めします(三時間、四五〇〇CFA、※作品の大きさによる)。お気に入りの布でバッグを作ってほしい、こんな絵でガラス絵を描いてほしい、などオリジナルの注文も受け付けてくれます。

・Manufacture sénégalaise des arts decoratifs

隊員間でもあまり知られていない穴場スポット。大きなタペストリーが展示されており、工房ものぞくことができます。一人二〇〇〇CFAで英語がフランス語のガイド付きで見学ができます。



Ti Vouanne ティバワンヌ

○ダカールから

・約九〇km

・テムディックで約一時間半、Placesで約二時間、
鉄道で約三時間

○このまちでこんなものが見られます、買えます、

食べられます、作れます！

・グランドモスケ

ティバワンヌはイスラム教ティジャン派の聖地であり、街に住む人のほとんどすべての人はイスラム教徒である。街の中心にグランドモスケがあり、塔の高さはおそらく三〇mほど。毎週金曜日はお祈りをする男性たちで溢れかえる。



・馬

荷物を運ぶためのシャレット。人を運ぶためのウティール。たくさん馬が働いている。ガラージュからマルシエまでのメイン通りは一〇〇FCHAで利用できる。あちこちに糞が落ちているため、足元には要注意。



・ンボーロ(Mbour)の浜辺

ティバワンヌ市から車で北に三〇分ほど行くとンボーロという街があり、中心地からさらに車で一五分ほどで浜辺まで行ける。たくさん船があり魚市場も開かれています。ンブール(Mbour)よりも規模は小さく観光客はほとんどいないため、しつこい客引きに会うこともなく、のんびりと浜辺を散歩できる。





活動紹介



#幼児教育 #ファティック #2018-1 #幼稚園 #見崎祥恵

ファティック市内の幼稚園2か園で活動しています。主な活動目的は3つあります。

1つ目は先生達に算数の基礎となるあそびを伝えることです。セネガルの幼児教育は、細かいカリキュラムが決められています、それが小学校のような机上の活動を中心としたもので、幼児の発達に合っていないという問題があります。1年目は絵カードを使ったり、身体を動かしながら数を学ぶ遊びなどを行いました。日本に比べて、生活の中で数に触れる経験が少ないセネガルで、楽しみながら数の概念を身につけて小学校につなげてほしいと考えています。

2つ目は、先生達に製作活動（小学校でいう図工）の指導方法を伝えることです。セネガルの先生達自身が、製作活動の実践経験が不足していることから、適切な指導方法を知らない先生達が多くいます。そのため、製作のやり方だけでなく、はさみなど道具の指導方法、子どもの手先の発達段階なども含めて先生に理解してもらうことを目指しています。

3つ目は、子ども達の指導環境の改善です。現在、セネガルの幼稚園では、数人の子

どもが教師と活動している間、他の子が長時間座って待ち続ける活動が多くあります。しかし、待つだけでは子ども達は何も学ぶことができず、待てなくなった子ども達が叱られる、といった悪循環に繋がっています。そのため、室内にはさみコーナー、お絵描きコーナーなど、子ども達が自分で学ぶことのできるコーナーを設置して、待ち時間を減らして主体的に学べる時間を作っていきたいです。2年目は上記の活動をいかにセネガルの先生達中心で行えるようにするか、そして私の帰国後どのように残していくか、というところに焦点を当てて活動していきます。また先輩を中心に作成した指導書に関する研修会も開催したいと考えています。「つなげる、ひろめる」が2年目のキーワードです。





#コミュニティ開発 #ジョフィオール #2017-3 #村 #高橋実希

2018年1月から医療分野のコミュニティ開発隊員として、首都から車で約3時間のジョフィオールという町で暮らしています。任地に来て間もない頃は配属先のジョフィオール保健区や保健センター・保健ポストの役割を知ることで手一杯でした。それでも、いつかコミュニティ開発隊員として村で活動したいという思いを持ちながら、さまざまな地域に足を運び、現在活動しているスージャン・ディムレ村を見つけました。

私の活動するスージャン・ディムレ村には家が23軒しかありません。村の端から端まで歩いて10分かかりません。しかし、ここはセネガルです。1軒には2~3家族が住んでおり、更に子たくさん。村の人口は500人以上です。この小さくて大きな村で私が初めて行ったのは手書きの地図の作成です。地図を作るという目的で村の中を歩きながら、村の人と挨拶を交わし、自分の存在を知ってもらうことに努めました。その後は完成した地図を片手に家庭訪問による啓発活動を続けています。訪問2周目の現在は手洗いのアクティビティを行っており、間もなく3周目の新しいアクティビティを開始するところです。村の保健員のハディは私の活動に欠かせない大切なパートナーです。23軒を回ると言うことは23回同じアクティビティを繰り返すということです。アクティビティの軸として、従来の話しを聞くだけの一方的な啓発を抜け出して、住民自らが前に出て意見を発表したり、クイズに答えたり実践したりと、啓発を受ける側がアクティビティに参加する機会を設けています。こうしたアクティビティを何度も繰り返すのは簡単なことではないけれど、繰り返すことで初めは通訳だった彼女が自分から住民に説明したり、質問を投げかけたりと嬉しい変化もありました。そして何よりも、村の皆、そしてハディが「とても楽しい」と言ってくれることが活動のモチベーションになっています。

活動を続けている間に、隊員や日本から来た知人をスージャン・ディムレ



#小学校教育 #ジョフィオール #2018-3 #セレール族 #西原悠貴



現在私は、ファティック州ジョフィオール市の視学官事務所に配属されている。小学校は市内に10校ほどあるが、その中の一校で活動をしている。主に、算数の授業の補助や、情操教育(体育、図工、音楽)の授業実施をしている。

セネガルは、日本と同じようにクラス担任制で、全ての教科を担当が持っている。自身教員をしていた経験があり、正直もっとメインで活動をしたい気持ち、自分がいなくてもまわっていくクラスにどう関わっていけばよいのか疑問に思う日もあった。コミュニケーションも十分に取れない事についても、もどかしく思う時が多々あった。



しかし、日本の指導方法に耳を傾けてくれるセネガル人の先生がいて、授業実施時の児童たちの素直な反応や笑顔を見ると、もう少し頑張ってみようかという気持ちにさせてくれる。

私が活動の重点としたいのは、算数の計算である。それは、簡単な計算問題も解けない子が多い現状を見たのが始まりだった。どこにつまずきがあるのか、解決策は何かをセネガル人の先生と同じ立場で考え、進めていきたいと考えている。算数に限らず、コツコツと継続的に取り組むことの大切さを色々な場面で伝えていけたらと思う。

セレール族ののんびりした雰囲気は自分にとっても合っている。いつも優しくしてくれる人がたくさんいるこの地で、日々の活動を通して、何か恩返しをしていきたい。



もう少し続くよ～
どんな仕事があるんだろう。
...私はこの子達を育てるのがお仕事。



#コミュニティ開発 #ホンボル #2018-1 #野菜栽培 #市川史帆

私はティエス州ホンボル市役所に配属され、野菜栽培に関わる活動をしています。…と言いつながら、実はホンボルに農家はそれほど多くありません。農家がいるにも雨季に穀物を栽培する兼業農家が多いので、野菜を作っている人はごく僅か。そんな中、家庭菜園の需要は意外にも高く、今は活動対象を農家と一般住民の2つに分けて活動を進めています。活動の拠点が、偶然にも2箇所とも保健に関わる機関なので、今後は野菜栽培と栄養改善の啓発を繋げて活動を展開していきたいと考えています。

①農家向け【看護学校】

これまで敷地内の畑で栽培状況の調査を続けていました。セネガルの農業の現場ではたくさんのカルチャーショックがありましたが、特に肥料に関しては、砂質が原因で肥えていない土地にも関わらず、畑に肥料や有機物をほとんど入れないことに驚きました。今後、肥料や苗に焦点を当てて栽培技術の向上を目指します。

②一般住民向け【保健ポスト】

新たに菜園を設置するために通い始めましたが、ここではセネガル人を相手に活動を進める難しさを実感しています。動物の侵入を防ぐ柵が出来るまでに5ヶ月待った他、栽培を始めた今も、診療所のスタッフたちの主体性を引き出すことができていません。彼女たちにどのように動機付けをしていくかが今後の課題です。





#助産師 #カフリン #2018-3 #村巡回 #松尾祐希



カフリンについては、バオバブの任地紹介をご覧ください。

私の配属先は、保健センターですが、活動では主に村を訪れます。村に行くまでの交通手段もなかなか大変で、村行きの乗り物(シャレット、ミニバス、乗り合いの車など)を探すところから始まります。そして、カーズ(保健小屋)があれば、そこにある来院者リストや子どもの追跡体重記録などを見て、気になった患者さんのお宅を訪問し、簡単な診察と個人指導を行います。

例えば、妊婦さんであれば、足が浮腫んでいる、頭痛がする、眩暈がする、次の来院日が分からないなどの相談があります。新生児、乳児では皮膚トラブルが多く、沐浴指導をしたり、基準より小さそうであれば、計測を行い栄養失調のスクリーニングにかけます。薬物治療が必要な場合は来院を促します。指導の際は、本人だけでなく家族も巻き込んで行うようにしています。原因が分からなければ、数日そのお宅に通い、対象者の生活をモニタリングします。と言っても、しっかりとしたものではなく、威圧感を与えないよう、お友達感覚で遊びにきている様に過ごしています。

様々な村の巡回では、出会った村人たちと木陰でアタヤを飲みながら世間話を楽しんでいます。会話の中から悩みを聞き出し、簡単な診察や啓発をすることにより、潜在している栄養失調児への介入や、疾病の早期発見、早期治療に努めています。村で集まっていると、噂を聞きつけた村人たちがわが子連れて集まってきます。「この子も見て!」「私も腰が痛い!」と。村人たちも、健康に関心はあるものの、知識を得る機会がなかったり、間違った知識で対処しようとするため、来院が遅れたり手遅れになるなどの原因の一つとなっています。

また、アクセスや貧困などの理由から予防接種を受けに來られない村人たちのため、月一の村巡回予防接種に同行し、人が集まる機会を利用しての啓発も行なっています。

配属先では、妊婦健診、家族計画、小児科、予防接種、栄養失調室での業務補助や啓発などを行なっています。

今後の目標として、啓発の種類と対象の幅を広げて実施していくこと、医療が行き届いてない村にも、正しい知識が浸透する活動をしていくこと、そしてハイリスク対象者へは、相手の心を動かす、行動変容につながるアプローチをしていくことです。



ナマズの里から

Cheikh Anta Diop 大学の水産の研究室からお届けします。セネガルの水産研究の中心地となっている場所で、私は教授や学生とセネガルの海について学んだり、最近は大学と漁師と共同のプロジェクトを行進めたりしています。そんな私が見た、セネガルの水産。

この研究室ではは養殖をメインに扱っています。対象は主にナマズとティラピアという魚です。セネガルでは政策として養殖が推進されており、ホットな分野です。具体的な研究として、餌にアクビやモリンガ、幼虫などセネガルで比較的安価で容易に手に入る物を混ぜると、稚魚の生存率がどうなるか、栄養組成がどうなるか、といったものがあります。こういった研究は特別な機器や設備を必要としません。つまり、これらの成果はセネガルの他の施設で明日にでも導入できるような、非常に実用的な研究なのです。決して

最先端を追求するような研究ではありませんが、そういう意味でこの研究室が果たしている役割は大きいでしょう。



○暑い時期にはこうして養殖槽のそばの日陰で一日を過ごします。



○このアイドルのナマズたち。「かわいい!!」と私が言うと、「言葉は正しく使いなさい」と研究室の女の子にたしなめられました。このかわいさ、わからないかなあ。

ないということ

水産研究の現場においても、やはり多くの機器・設備がありません。彼らはコンクリートの水槽を自ら造り、水の循環システムを自ら考案して設置し、そして多くの時間を餌作りに割いています。設備の不足のため、この研究室の教授もほぼ毎年実験のために日本を訪れています。このように設備が整っていないのは、大学以外に資金源がなく、十分でないためです。ですが限られた物的・人的環境で、教授や学生はできる限りのことを尽くしているように私の目には映ります。

私がここで感じる「ない」ということの一番の問題は、想像力の欠如に繋

がってしまうことです。彼らは非常に勤勉だというのが率直な意見です。座学に関して多くの知識を有していますが、研究の話になるとそれは変わります。「ない」ものを用いた研究を想像することが、どれだけ難しいことか。これから国を支えて行くであろう彼らが、限られた想像力で学問を終えてしまうことは、やはり少しもつたないよう

に感じてしまいます。

優秀な彼らだけあって、「ない」という事実には気づいています。もっと進んだ環境で学びたい、研究したいと思っ
ていますし、実際に日本の文科省のプログラムにも多くの人が応募しています。「日本に行けるなら行きたいよ。」
何度この言葉を聞いたことでしょうか。もし彼らが日本に生まれていたら。ふ
とそんなことが頭に浮かびます。

では、今の「ない」状態で想像力をか
きたてるにはどうすればよいのでしょ
うか。それは、「ある」世界を知ってい
る人が、彼らに教えることだと私は考

えます。「少年よ、大志を抱け。」あま
りに有名なこの言葉ですが、クラーク
博士のような人々が黎明期の日本に必
要であったことは、この言葉が十分す
ぎるほど教えてくれます。こういうイ
ンパクトを残せる人が、今のセネガル
に必要なのではないのでしょうか。

セネガルの学生が外に出るばかりで
はなく、外から先生がきて多くの学生
に世界を見せてこそ、彼らの学問が本
当の意味で実生活に結びついたもの
になると信じています。

セネガルの水産業はポテンシャルが
あるという事実は、単にセネガル沖が
好漁場だということではありません。
それは、未来を担う学生からひしひし
と感じることができます。漁師の家系
であったり水産の現場を知っている、
見ている学生が多く、なかにはレブ族
という古来よりの漁業を生業とする民
族の学生もいます。そしてなにより、
彼ら自身がセネガルの水産はポテンシ
ヤルがあると信じて止まないことです。

起業しようという学生もおり、学んだ
ことを活かして水産業界で生きようと
する姿勢は非常に高いものがあります。

最後に、教授とのエピソードをご紹介
致します。二人で研究室内の壊れて
使えなくなった水槽を見ながら、それ
らは何の研究に使われていたのかとい
う話を聞いていた時でした。教授は一
通り説明を終え、こう言いました。「す
ぐにでも直したいが、今はちょっと自
分のお金は使えないんだ。」詳しく聞
くと、教授はこれまで幾度となく研究
のために私財を投じていたというので
す。私は、ただただ頭が上がりません
でした。

セネガルのためにと研究する学生や
教授たちに、適切な資金、設備、人材
が完全にそろうことは難しいでしょう
ですが、こうした国の幹となる人々に
少しでも光が当たりますようにと願い、
この文章の結びとさせていただきます。

文責 九州大学 内田祐紀哉

零細漁業の現場から

セネガルの産業と聞いて、何を思い浮かべるでしょうか。セネガルは農業や漁業などの一次産業が主要産業とされています。



本誌をご覧いただいている読者の皆さんはご存じかも知れませんが、セネガルの主食は米であり、数ある料理の中でもチエブジェンが国民食として有名です。チエブジェンに入っているも

のと言えば魚です。セネガル人が摂る動物性たんぱく質のおよそ70%は水産物と言われており、水産業に関わる人口もとても多く、とても重要な産業の一つです。この水産業を支えているのが零細漁民たちです。この記事では、私が住むンブル県の零細漁民に焦点を当て、私の経験をもとに、現地にいなければ分からない情報をご紹介します。

零細漁業

セネガルの水産業は、貧困削減、雇用創出、食糧安全保障、経済の観点から、前述の通り重要な産業とされています。とりわけ零細漁業については、セネガル水産セクターの年間総生産量の約90%を担うとされており、また、同セクターの年間総生産額については

約65%を占めています。水産業としては、全就業人口の17%である約60万人が従事しています。輸出総額の20.9%(2015年)を占めており、零細漁業の持続的発展はセネガルの産業の発展とも密接に関係しています。一方で、水産資源管理や水揚量の減少など課題の多い分野でもあります。

私が普段お世話になっている、JICAセネガル事務所によって、様々なプロジェクトも行われています。例えば「漁民リーダー育成・零細漁業組織強化プロジェクト」(2009年~2013年)や、ンブル県を対象にした「バリエーチェーン開発による水産資源共同管理促進計画策定プロジェクト(PROCOVAL)」(2014年~2017年)、進行形のプロジェクトでは、「広域水産資源共同管理能力強化プロジェクト(COPAOL)」(2017年~202

1年)などがあります。日本は、1076年から、40年以上に渡り継続的に支援を行っています。

ニヤニン (Nianing)

この記事で取り上げる零細漁民は、ンブール(Mbour)から南に10km程のところにあるニヤニン(Nianing)という村に暮らしています。セネガルと聞いて漁業が思い浮かぶ方でも、支援関係者を除けばNianingをご存じの方は多くありません。しかし、Nianingはセネガル零細漁業においてとても重要な場所なのです。

NianingはMbour 県に位置するのですが、このMbour 県は、全国零細漁業生産量の約40%を担う、セネガルで最も盛んな零細漁業の拠点です。



右の写真は Mbour 漁港の浜辺の様子です。夕方にビローグが戻り、獲れたての魚が浜辺に並びます。とても活気のある様子がお分かり頂けるかと思えます。

セネガルではタコ漁が盛んにおこなわれています。2015年には、当時の漁業・海洋経済大臣が、国際展示会、ジャパン・インターナショナル・シーフードショー(東京)にて直接セネタコをアピールされ、セネタコの挑戦

Osaka(大阪)においてもセネタコは高い評価を得ています。

現在、日本国内では、関西地区を中心にセネタコが流通しており、大阪のタコ焼きに入っているタコがセネタコ、というのも珍しくありません。タコはセネガルにとって重要な魚種であり、今後も継続して持続可能な漁業が行われていく事が予想されます。

この現在の形のタコ漁が始まったのがNianingなのです。日本の協力の元始まったタコ漁ですが、他にも、禁漁期の設定などNianing から始まった取り組みがセネガル各地に広がった事例が多くあり、Nianing はセネガルの零細漁業にとって重要な村のひとつである事は疑いようがありません。次の段落では、このような特徴を持つNianing の零細漁民の一日を切り取っていきます。

零細漁民の一日

就業人口の多い水産業、そして零細漁民。ここでは、Nianingで零細漁家を営むある漁師のある一日をご紹介します。狙う魚種によってスケジュールが変わってきますが、今回は今が最盛期のタコ漁の場合です。

4:00 起床、漁に出発

11:00 朝食、船上にて

パン、ビスケット、飴類

15:00 帰宅、昼食

17:00 漁具のメンテナンス、仮眠

21:00 夕食

24:00 睡眠

もしかすると他の漁師とは若干異なるかも知れませんが、基本的にはこのような流れで一日を過ごすようです。タコ漁は、およそ25km程沖合で漁を行います。およそ4、6人が一つのピローグに乗り込み漁を行い、一日の漁獲量は20、80kgほど。



これがタコ漁に使う仕掛けです。糸の先端にこの仕掛けを付けタコを吊り上げます。

Nianingの漁師さんによると、Nianingには約300隻のピローグがあり、そのうち20隻は氷を積んで漁に出ます。一般のピローグは日帰りで漁に出る事が多いですが、氷を積んだピローグは3、5日間陸に上がらず漁を続けるそうです。

帰宅後はすぐに昼食をとり、休憩を取りながら漁具のメンテナンスを行います。それが終わった後に仮眠です。25kmの沖合となると波も高く荒れているそうで、漁の疲れを取るために少しでも多く寝るように心がけていると教えてくれました。

海から帰ってきたピローグは大勢の人の協力の元陸揚げされます。これが結構な力仕事で、私は、上げるピローグが増すごとに息が上がっていきます。



ピログで海に出るだけではなく、陸からは地引網漁が行われています。Nianing に行き地引網をしているのを見かけると、共に汗を流し信頼関係醸成の一助になればと、参加をすることになっています。

下の写真のように、引き上げた網を整頓する側らで、女性たちがさかなをバケツに入れて持ち帰ります。地引網で獲れた水産物に関しては、漁に参加したすべての人に分け前が与えられ、

私も幾度と獲れたての魚を頂いています。



終わりに

セネガルの重要産業の一つである漁業、中でも零細漁業に従事する漁民に焦点を当てて書かせて頂きました。インタビューや書籍で調べればわかるような情報だけでなく、私が現場に出て、見て、感じた事を中心に書いてあります。掲載した写真はすべて私やJICA セネガル事務所のボランティア調整員の方に撮って頂いたものを使用しています。ここで書いた事は彼らの生活や、彼らを取り巻く環境の一部に過ぎません。零細漁民に興味のある方は、お近くの漁港に出向き、是非彼らに声を掛けてみてください。気さくな人が多いセネガル漁民、きっと楽しい会話や新しい発見が待っています。

(編集…藤井)

就職支援

ルーガ/就職支援

人材サービス企業の人事企画。外国人社員とともに、はたらきやすい組織づくりを担当。

コミュニティ開発

ンギディレ/コミュニティ開発

会社の現職参加制度を利用したため、サラリーウーマンに戻った。今は IT 会社で国内の通信会社向けにアカウント営業をしている。今後はお礼奉公しつつ、50 歳になるまでにンギディレに仕事として、戻れることを目標に頑張りたい。

ファティック/コミュニティ開発

民間企業に就職活動中。

環境教育

クールマティアベル/環境教育

ただいま検討中。

2017年度1次隊

教育系

ティエス/幼児教育

語学留学で英語の勉強をして、
ニュージーランドで保育士として働く。

ンブール/小学校教育

転職エージェントを利用し、約1カ月の就活期間を経て、
一般企業の営業職での勤務が決定。
海外と取引をしている会社のため、どこかで協力隊の経験が
生かせるのではと考えている。

ジュルベル/小学校教育

会社の現職参加制度を利用したため、科学メーカーである
所属会社へ戻り、営業職で勤務。

家畜飼育

リングール/家畜飼育

獣医学の大学院に進学する。大学院では途上国における人獣
共通感染症の発生要因を調べる研究を行う。

どのような進路に進むのだろうか。
今回様々な隊の先輩方にご協力いただきインタビューを行った。

2016年度2次隊

教育系

カフリン/数学教育

帰国してすぐに栃木県の中学校で勤務。また、任期中に日本人学校の試験を受験し合格したため、現在上海の日本人学校で勤務中。またマフェが食べたいです。

ダカール/幼児教育

現職参加のため、帰国後は保育園に復職した。派遣中におもちゃの寄付などでお世話になった園や自分の園の子ども達にセネガルの様子や体験を伝えていった。

スポーツ系

ティバワンヌ/体育

帰国後。フランスで語学留学中。将来『アフリカ圏』『スポーツ』『ジェンダー』に関わる仕事に就きたいという思いから、フランス留学を決心した。フランス留学後は英語留学も検討中。社会人経験がないことに不安があり、一時期は日本ですぐに就活をしようとも考えたが、やる気のある時に学ぶべきでは…と考え、現在に至ります！

2016年度3次隊

教育系

ギンギネオ/小学校教育

帰国後予備校に通いながら、教員採用試験を受験。

4月から臨時、正規問わず小学校教員予定。

コミュニティ開発

ルーガ/コミュニティ開発

セネガルともっと関わりたいと思ったため、フランスの大学院で人類学を学び、活動に関わってくれた職人の研究をする予定。運や能力が許せば、そのまま人類学者になりたいです。インシャアラ。

サンレイ/コミュニティ開発

現職参加のため製薬会社に復職し、機会に応じて職場でセネガルの活動を紹介している。また、長期的なキャリア構築の視点から、9月より通信制大学院に進学して公衆衛生を勉強する。

スポーツ系

ティエス/レスリング

帰国後は国会議員秘書として勤務。今後はセネガルに戻り、2022年アフリカ初のセネガル主催のユースオリンピックに私の指導したレスリング選手を輩出したい。そのため、来年にはセネガルに戻り、次は JICA というバックアップなしで個人として活動していく予定。

2016年度1次隊

教育系

リンゲール/小学校教育

日本全国に学習センターがある通信制高校で地理歴史科の教員として勤務。

2014年度1次隊

コミュニティ開発

チャメヌ村/コミュニティ開発

モンリオールで2ヵ月仏語を学んだ後にワーホリでパリへ。料理人をしつつ、パリの大学院に進学して、「セネガル小学校の現地語教育が仏語の獲得に与える影響」という題名で修士論文を提出。今後は日本の包丁をフランスで販売するかも…。

2015年度9次隊 2013年度1次隊

コミュニティ開発

リンゲール・リシャートル/村落開発・コミュニティ開発

2013年度1次隊の任期満了後、世界一周の旅に行き、その後沖縄の民宿にてアルバイト。その後2回目のセネガルへ。

2015年度9次隊の任期満了後、ワーホリでニュージーランドへ。ラーメン屋等でアルバイトをし、その後3回目のセネガルへ。

カゴメセネガルの立ち上げと営農事業マネジメントを担当。

2019年4月よりお笑い養成校に入校。(その後セネガルへ…?)

2009年度4次隊

教育系

ティエス/理数科教育

帰国後、IT企業に就職し、インフラ系のエンジニアとしてシステム構築や運用する仕事をしていた。

今回協力してくださった先輩隊員の皆様、本当にありがとうございました。隊員によって進む道は様々。2年間は長いようであっという間。私も自分の将来を考えることもあります。どうしていいのやら…。私のような隊員の参考に少しでもなれば幸いです。(編集：菊池)

セネガルの結婚式

大家族のセネガルでは、結婚式や赤ちゃん誕生のお祝いなど、とにかくセレモニーが多い。隊員のみなさんも、任地で友人のセレモニーに呼ばれることも多いのではないだろうか。

私も、この1年でたくさん結婚式や赤ちゃんのお祝いに参加してきた。中でも印象に残った、セレール族の友人の結婚式について紹介しようと思う。



初めて結婚式に参加した時、日本の結婚式しか知らなかった私は、友人の家に行って驚いた。おしゃれをしている人が誰もいないのだ。そう、セネガルでは、日本のように結婚式を手配する会社があるわけではなく、会場設置、食事の準備など何もかもが全て手作り。女性は朝から何百個もの野菜を切り、子ども達も鶏を絞める手伝いをしている。日本のように、朝からおしゃれをして会場に行くだけというようにはいかないのである。

初めての結婚式で学習した私は、この日も普段着で出かけ、すぐに野菜切りに加わった。大量に野菜を切ったあとは、音楽をかけるながらのんびり食事が出来るのを待つ。待ち時間がと



かく長いセネガル、それはセレモニーでも例外ではなく、毎回かなりの待ち時間があり、その間みんなおしゃべりをしたり、昼寝をしたりと思いいいに過ごしている。

夕方ようやく昼食が完成し、食事をしたあとは、またアタヤを飲みながらのんびり……。夜になり、いったんシャワーを浴びて着替えたあと、ようやくセレモニーが始まった。その時点ですでに22時。この日私が行ったのは花婿側の家だったので、人々は踊りながら花嫁の到着を待っていた。踊りが大好きなセレール族、子ども達が踊る時間、一人ずつタムタムに合わせて輪の中で踊る時間、音楽に合わせてみんなで踊る時間、そして歌う時間など、子どもからお年寄りまで、みんな文字通り朝まで踊り明かすのだ。おばあちゃんもおじいちゃんも疲れを知らず、みんなとても生き生きしている。この日は結局、朝7時までセレモニーは続いていた。

そして午前10時頃、真夜中に別の村を出発した花嫁がようやく到着。さて、花嫁はどんな人だろう……と家の外へ行ってみると、



花嫁の姿は見当たらず、白い布でく
るまれた物体が2つ。そう、花嫁
は正式なセレモニーまで顔を見せず、
新郎新婦ともに白い布で姿を隠し、
家に入る門の前で座りながら儀式を
待つのである。家族が2人を囲んだ
あと、2人の頭に綿や穀物をのせ、
人々は歌い、踊りながら花嫁を迎え
入れる。これは2人が結婚したあと
に、服や食べ物に困らないように、
という意味がこめられているのだそ
うだ。この儀 式が終わったあと、

花嫁はそのまま姿を隠したまま、室内で式の準備を始める。その間、他
の女性たちは庭の隅へ移動して、一頭の
牛を囲み、何か始めるようだ。女性たちは、
頭に巻いている布を取って、歌い、踊り
始めた。中央では、男性が牛を絞め、女
性たちは牛が倒れて息を引き取るまで、
布で牛を叩きながら踊り続けるのである。
普段見ることのできない、伝統的な場面
に出くわした瞬間だった。(なお、この牛
は午後チェブヤップとしておいしくいた
だいた。)



新郎側のンジェツキの贈り物
を紹介したり、新婦側の家
族からの贈り物を紹介した
りしながら、基本は踊り中
心に進められていく。もし
て、この日も踊りは夜中ま
で続き、夜のセレモニーで
は、また新婦が衣装を変え
て登場していた。セレール
族の結婚式は1週間祝い続
けることもあるというのだ
から、驚きである。

セネガルの結婚式は、男
女の家族が最初にそれぞれ
の家で別々にセレモニーを



行うという事からわかるように、男女
2人の結婚式というよりも、家族体で
祝うという意味合いが強い。
また、民族による違いだけでなく、
時代の変化とともに、結婚式の形も
実に多種多様化してきている。(今回
書いた結婚式も、セネガルのひとつの
結婚式の形で、全てに当てはまるもの
ではありません。) 今後も、セネガル
の様々な文化に触れることを楽しみに
している。(見崎祥恵)

結婚式、これってどうなってるの？

何時頃行けばいいの？

Ça dépend! (その時による)

仲良しの友人の式では、朝 10 時頃行って、食事の手伝いから参加します。(女性の場合) 職場の同僚や友人程度であれば、14 時頃行って昼食をいただいて、セレモニーに参加します。花嫁は 18 時以降にドレスを着て到着することが多いですが、昼にセレモニーをする時もあるので、招待してくれた人に聞いたり、一緒に行くのがよいと思われます。お手伝いをする場合は、普段着で行き、あとで正装に着替えます。

引き出物ってあるの？

セネガルの結婚式では前日に大量にベニエ(ドーナツ)を作って、飴やジュースと一緒にラッピングする場合、簡単な軽食を包んで渡す場合など様々ですが、ベニエを作る家が多いです。また、友人がお祝いとしてベニエや飴などを持参して、それを配ることもあります。

ご祝儀っていくら渡すの？

セネガル人でもその人の経済状況や、新郎新婦との関係により様々ですが、1000 フラン~2000 フランが相場です。また、現金ではなく、飲み物や洗剤などの日用品を渡してもよいです。渡すタイミングも特に決まりはなく、新郎新婦やその家族に手渡しします。

グリオにはいくら渡す？

セレモニーの際、グリオと呼ばれる伝統的音楽を奏でる人たちにお金をちょうだい!と言われることもあると思います。自分の名前を呼んでもらって歌を歌ってもらった時などは、お礼として 100~500 フラン程渡します。その他、セレモニーの最中、終了後にも、要求された時は 500 フランほど渡すことが多いです。

また、セレモニーの中で、一人おしゃれをせず、大きなズボンをはいたり、腰に布を巻いたりしながら、服にお金を挟んで踊っている人がいます。これは、新郎新婦のいところで、ジャームと呼ばれる人です。ジャームは、セレモニー中、洗いや掃除、水を配る、ダンスでセレモニーを盛り上げるなど、あらゆる仕事をこなします。ジャームはセレモニーのあとに家族からお金や布などをもらいますが、私たちがダンスを踊っている時などに 500 フラン程度あげてもよいです。

結婚式に花嫁が欠席？！

家と家の結婚式という意味合いが強いセネガル。花嫁と花婿の実家が遠い場合などは、花嫁が花婿側の結婚式に参加せず、結婚式はそれぞれの家で済ませ、1ヵ月後に花嫁が嫁ぐ場合もあるそうです。

ごはんは何か出るの？

昼ご飯はチェブヤップが多く、夜ご飯はソースギナーが多いです。夜にベルミセルやクスクスが出る時もあります。

ンジェッケって何？

結婚式を取り仕切る女性のことです。新郎が自分の姉妹、または女性の親友を選びます。(第一婦人が第二婦人のンジェッケを務めている時もありました！) 通常は1~2人ですが、ウォロフ族では3人選ぶ場合もあります。ンジェッケは、結婚式で花嫁に渡すお祝いの品や用意するものなどあらゆる準備や、その後の花嫁のサポートをします。ンジェッケの他に、新婦の親友(父母同じではないが、姉妹のように近い人)である、マガレと呼ばれる人もいます。マガレに選ばれた人は、新婦のために結婚式で特別なお祝いの品を用意します。



見崎さん、記事のご協力
ありがとうございました◎



↑遠泳に挑んだボランティアたち
荷物を全てマネージャーに預けるため大会開始2時間前に裸足にさせられる選手たち



ゴレ島遠泳に挑んだ7人の有志に迫る



毎年この時期に開催されているゴレ島遠泳大会、今年は9月29日に開催された。この大会に参加した7人のボランティアたちと同じように、セネガルで生活する専門家の方々とそのご家族。距離にして4.5kmという過酷な道のり。その前後をマネージャーとして同行した私がその様子の一部を皆さんにお届けする。

無事7人ともゴレにたどり着けるのか

当日私たちは先にフェリーでゴレ島に向かいみんなの到着を待っていた。この日は島全体が盛り上がっていた。開始1時間半、まず姿を現したのは藤井隊員(18歳)。ボランティア最年長だったので驚いた顔をしながらも出迎えると、「船でエスケープした」と

遠泳を振り返って

(選手) 一人ではゴールできなかった。一緒に泳いでくれたみんなが頑張っていると思うと前に進むことができた。——綿密な下調べのもとスケジュールを立てたり、手厚くサポートしてくれた皆さんに感謝している。今回のように隊次を超えて何か活動したい。——一生に一度の貴重な経験になった。皆さんのサポートのおかげで最後までやり抜けた。(マネ) ゴール地点で無事に全員の到着を迎えられたことが本当によかった。何よりも選手の皆さんがとてよかった。よかった。(編集:鳥淵)

↑三島、竹田、金本、纈纈隊員コメントありがとうございました。



とのこと。それでもちゃんと到着したことを私たちは嬉しく思った。そして次に着いたのは青木隊員(19-1)、なんと開始2時間。続けて西原隊員(18-3)、三島隊員(18-1)、少し時間をおいて竹田隊員(18-3)、工藤隊員(18-1)、金本隊員(19-1)。全員無事ゴール。ゴールした瞬間は本当に感動的だった。

\ 未来の選手に伝えたい /

ゴレ遠泳3つの注意事項

この大会の準備を選手たちとするにあたって、注意事項が多いことに気づき、まとめることにした。



今回のスケジュール

09:00 ドミ出発
09:30 出発地
10:00 フェリー乗り場到着
10:45 フェリー出発
11:30 ゴレ島着陸
12:00 大会開始
15:30 全員ゴレ島到着
16:00 ゴレ島出発
16:30 ダカール到着

1、Taxiで行く際は大会の出発地点からであれば Monaco Plage、フェリー乗り場（写真）からであれば Port Autonome de Dakar もしくは Goree に行きたいと伝える。

2、フェリー乗り場でチケットを買う際、乗る際には必ずレセピセを持っていくこと。値段が大きく変わる。(5200F→1500F) ちなみに当日は混むので前日にまとめて買うことをすすめる。選手は無料。

3、全員が泳ぎ終えたらすぐにフェリーに乗ること。





セネガルの 印象的な 出来事



- ① ホームステイ先にて、毎週日曜日にクスクスヨーグルトが出てくること。
- ② プスープスーと言えば、どんなに遠くからでもタクシーがバックしてやってくること。
- ③ タバスキ前に全力疾走するヤギとそれを全力で追いかけるセネ人を見かけた事。結局捕まえられてタクシーのトランクに積まれていきました…
- ④ セネガル人が、いつものように傷口を香水で消毒していた事。確かにアルコールですが…
- ⑤ カフェトウーパとアタヤの砂糖の量の多さ。
- ⑥ ビーチサンダルが切れて歩けなくなって困っていたら、通りかかった子どもたちが、即座に針金で切れ目を繋いでくれたこと。
- ⑦ ロバの鳴き声。
- ⑧ 馬の交尾。
- ⑨ サッカーセネガル戦の街全体の盛り上がり方。
- ⑩ 雨季。雨と風の勢い。
- ⑪ 家畜の翟の顔にお絵かきしてあった。

セネガルのはずさないお土産



アフリカ布:

セネガルのどこでも買えるアフリカ布！たくさん種類があるのでぜひお気に入りの物を見つけて持って帰ってみたいかがですか？アフリカ布の小物を日本でも作ってみたいかがでしょうか？



手提げバック:

布のセンスの良さと書いてある言葉のギャップに惹かれて購入したそうです！また内ポケットもついている優れたもの！フラトーのカクテルセネガルで購入可能。1つ5000F。お気に入りのバックを探しに行きませんか？



ポーチ:

アフリカ布を使ったポーチ。自分の着ていた洋服を使ってテイラーさんに頼む人もちらほらいるという話。ポーチと共にその洋服の思い出話もできて良いとの声がありました！

ちなみに...

セネガルといえば、日本の皆さんのイメージはサッカーで戦った国！ということでセネガルユニフォームも喜ばれたとのこと！一番人気のマネヤ特に思い入れがある選手のユニフォームを運動する時に着れば、話のネタになるかも？色んな所で購入可能。また、オフィシャルマークの入ったものから偽物感満載なものまでバリエーション豊富です！「いくら？」と聞くと最初は法外(のように思える)な値段を言われることが多いので、そこからどこまで値切るのかはあなた次第…！



(イメージ図)

出典:QOLY Football Web Magazine

URL:<https://qoly.jp/2018/05/27/senegal-2018-puma-home-away-kits-lfb-1>



ぬいぐるみ:

アフリカ布を使ったぬいぐるみ。クオリティはお店によりますが、それも含めて「セネガル」ということで愛着がわいているようです☺子どもへのお土産にも最適○

他にもアフリカ布で作った子ども服もウケが良かったとの声も！聞いてみたところ、アフリカ布の魅力にとりつかれた隊員がたくさんいました！ちなみに私もその中の1人です。笑

帰国隊員が実際に買った

ルーガ

身に着けるものからフックカバー、PC ケースまで幅広く販売しています。ちなみにフックカバーも PC ケースも布を持っていけば、好きな柄でつくってくれます！自分の洋服を持って行って作ってもらっても良いかも...?!



アフリカ布を
使ったお土産

カオラック

髪飾りやエフロンやストラップ等商品のバリエーションが豊富！是非足を運んでみてください😊



写真上：
帽子、リュック、
斜め掛けバック
写真左：フックカバー
写真右：PC ケース



ケベメール

ケベメールでつくられたカバンの意味を持つケベサック。こちらの工房では所属する6人の女性たちにより一つ一つ手作りされています。巾着を始め、様々なものを販売しています！



ファティック

水袋を内側に使っているエコポーチ！帰国隊員に聞いた中で大人気！ポーチのサイズもいくつかあり、用途に合わせて使い分け可能。そして、ダカールの JAMM REKK でも購入可能です○



DISCOVER SENEGAL. FEEL KAOLACK.
LIVE WITH RAFETNA.

VILLAGE ARTISANAL DE KAOLACK
ADDRESS

(+221) 77 055 56 16
TELEPHONE

RAFETNA.KAOLACK@GMAIL.COM
EMAIL

RAFETNA.MADEINKAOLACK
FACEBOOK

WWW.CMK.SN.VLY
WEBSITE





ガラス絵:
セネガルの職人さんが一つ一つ手作業でつくっているガラス絵。カーラビをモチーフにしたものや、お母さんをモチーフにしたものなど様々。



ガラス絵



ガラス絵のコースター:
こちらはコースター。お客さんが来た時にこれを使えば話のネタになること間違いなし！さほどかさばらないが、運ぶときには注意が必要！



ガラス絵の時計:
ダカールの derrière City Dia du Point E にある工房で販売しています。1つ 25000F ほど。
他にもモザイク画体験も行われています。そしてスプリングマーケットのようなマーケットでも購入可能。
興味のある方はサイトもあるのでこちらをご覧ください。

サイト: www.kamal-mosaic.com

ティエス

ガラス絵の灰皿:
ティエスのピラージュ(コマーレさん)をお願いしてつくってもらった灰皿(写真右)。1つ 8000F ほど。灰皿以外にもガラス絵体験ができたり、他のガラス絵もあるのでおすすめ☆



※ちなみに左のカーラビは編集者(菊池)が実際にコマーレさんのところで体験してつくったもの。
15cm×20cm で値切って 9000F。デザインも選べて、アレンジもできたので大満足でした◎





ピアス:
 アフリカ布を用いたピアスは必見！ダカールで年に数回開催されるマーケットで購入する人が多いよう。かさばらないで可愛いので女性のお土産に最適☆

アクセサリー インテリア系

写真右:編み込みかご

写真左:ピアス

※どちらも編集者(菊池)の私物です。そのため実際に帰国隊員が購入したものと異なります。



編み込みかご:

小物入れから大きめの物まで大きさは様々。使う用途に合わせて、また自分の荷物の量と相談してどのサイズを買うのか検討してみてください😊

嗜好品

タバコ:

Excellent というセネガル産タバコ。喫煙者へのウケは 1 番よい。700F で 7.5 ディックにて購入可能。



ちなみに...

他にもセネガル産のコンドームを大量にお土産に買っていった強者もいました。安くて軽いのに可愛いく、そしてウケが狙えるという優れたもの。ちなみにメンソールが一番人気だったそうです。

スーパーやガソリンスタンドで購入可能ですが、買いすぎると定員さんにつっこまれることもあるとか...



このパッケージや他にもあるので興味のある方は探してみてください。

また、セネガルで撮った写真を見せたり、セネガルでの思い出話をしたり、隊員だからこそできた経験、日本にはできなかった経験などを話しているという先輩隊員もいました。

そして、セネガルの道端で見かけるゲルテを持ち帰って、ゲルテの紹介、石のような触感を話のネタにした先輩隊員も。何でもお土産になります！

砂絵



ルーガ

砂絵(写真左):

ルーガの古い使われなくなった駅舎の中にアトリエを開いているおじさん(Tall さん:765822840)が描いてくれます。

オーダーメイドも可能で、何十枚かはストックもあります。白内障が進んでしまっていて、ちょっと細かいところは雑ですがそれもセネガルクオリティ! ということでカバーできるレベルです。

砂絵(写真右):

ガラス絵と並んでセネガルの有名なお土産として君臨する砂絵。ダカールやゴレ島やサンレイ等の観光地で購入可能。作品の大きさやお店によって値段も様々! 色んなところで是非探してみてください😊



ちなみに...



本当か嘘か、ゴレ島の砂絵師は、セネガルの砂絵に使っている砂はオリジナルで着色等一切していないそう。セネガル全土や国をまたいでベナンやコートジボワールからいろいろな色の砂を集めてきて、描いているのだとか。そしてゴレ島にはいくつかの砂絵の工房があるので、是非どこの砂なのか聞いてみても面白いかもしれません。それもお土産話の1つになるかと^^

飲食系



ジャム:
タマリンドやピサッフやバオバフといったセネガルで慣れ親しんだもののジャム。セネガルのジャムが口に合わないという人もいるようなので、相手の好みを知らない時は他の物の方が良いかも…？

ジャム:
小さく5つのジャムが入っているため、ばらまきように○カジ/で確認したところ 3500F。あげる人に好きなジャムを選んでもらっても良いかも。そしてパッケージが可愛い！



コンソメ:
セネガルの料理に欠かせないもの。1つあたり 25F で箱売りもしている。
日本に帰ってセネガル料理が恋しくなった時に、これを使って料理を作れば不思議…。そこはセネガル。

カフェトゥーバ:
セネガルの3大飲み物といえば(勝手に言ってみました)ピサッフ、アタヤ、そしてカフェトゥーバ。独特な味のため好き嫌いが分かれるが、日本の方々にこれがセネガルでよく飲まれているコーヒーだと紹介してみてもいかがですか？
ちなみに私は旅行に行く前の朝ごはんは必ず飲みたくない、飲んでいません。なぜでしょうか。不思議と恋しくなる味、カフェトゥーバ。ピスマラー。



ちなみに...



バオバフやナッツ系をお土産に購入したという隊員もいました。お菓子と共にバオバフの木の話や、ピーナッツがセネガルの農業を支えている話等、セネガルの事を絡めて話したそうです。私もピーナッツにはよくお世話になっているので、買って帰りお土産話と共に渡そうかな、とも考えています☺

モロッコ旅行記

任国外旅行 8 日間の記録



サハラ砂漠（メルズーガ） Day4

はじめに

1年目の夏のバカンス、駒ヶ根訓練所時代の同期であり現在中部アフリカに位置するガボンの隊員に誘われ、モロッコに行くことを決めた。旅行プランも彼女に任せっきりで、何も知らないままにモロッコに足を踏み入れた。飽き性であり、ハプニングも起きたこの旅行。それでもこの国を大好きになった。その良さをここで共有できたらと思う。



メディナ（エル・ジャディーダ）（世界遺産） Day1

モロッコにやってきて、最初に行ったのはエル・ジャディーダ。ヨーロッパの街並みをしたこの都市。ガボン隊員の予てからの友人がいるという理由だけで訪れたが、城壁で囲まれた市街地メディナがまさにアラジンの世界観や、街も海も綺麗で景色を眺めながら楽しい散策だった。



ジャマ・エル・フナ広場近く（マラケシュ） Day2

1 番のお気に入りスポット

エル・ジャディーダからバスで移動すること 4 時間弱、次に訪れたのはマラケシュ。また「ピンクの街」とも呼ばれているが、私にはピンクというよりサーモンピンクに見えたので真ピンクを想像して行くのはおすすしめしない。

しかし、そんな軽いショックも忘れさせてくれたのがこのフナ広場。屋台がずらりと並んでいて、歩き始めると果物やサンダル、ランプ、食器などが売られている。屋台の数も多く、敷地も広いので迷子になるが日本語で話しかけてくる現地の人には気を付けよう。高く売られたり、勝手についてきてガイド料を請求されることもあるんだとか。今回私たちの旅にはモロッコ隊員が同行してくれたので、助かった。またこの広場にはセネガル料理や物を売って

るセネガル人もいて、ところどころでウォロフ語が聞こえた。一緒に行ったモロッコ隊員のお気に入りだというセネガル料理の屋台に行くと、5、6人セネガル人がいてウォロフ語でおしゃべりをしていたので、話しかけるとウォロフ語を話す私を面白がって、いつものように「一緒にお昼食べるか？（18時頃）」と誘ってくれてなんだか私は安心した。

私はここでいくつかお土産を買ったが、その値段はすべて店員さんとの交渉によって決まる。日本人はお金を持っていると思われるので始めに提示された値段の半分が目安だと思う。ちなみにアジア人がフランス語を話すイメージがないのか、フランス語を話すすと喜んでくれて値段が下がることもある。かわいい雑貨がたくさんあった。

今回のお目当て

サハラ砂漠までの道のり DAY3, 4, 5

今回のサハラ砂漠に行くにあたって、JICAセネガル事務所からツアー会社の指定があり何件か問い合わせた結果、連絡のとれた「Desert Luxury Camp」にツアーを申し込んだ。内容は2泊3日四輪駆動車の英語とフランス語の語るドライバーが常についてくれて、朝夜ごはん込みのホテル代込み、2人で約1000ユーロ（約12万円）だった。高く感じたがドライバーは優しく、臨機応変に私たちの要望にも応じてくれてそれなりのサービスだったと感じている。

マラケシュから出発してワルザザートを通り、スコアラで1泊、翌日トドラ渓谷を通り、メルズーガで1泊、帰りは私たちの希望でフェズを終点にしてもらった。変わっていく乾燥地帯の景色を眺めながら、色々なポイントで降りて写真を撮ることができて、体調も崩すことなくツアーを終えられた。



トドラ渓谷 (ワルザザート)



サハラ砂漠の宿 (メルズーガ)



サハラ砂漠 (メルズーガ) Day3,4,5



今回のプラン

1日目	11:30	ムハンマド5世国際空港着
	12:45	カサブランカ発 (ONCF)
	14:00	エル・ジャディーダ着
		海沿いを散歩
		海鮮料理
		(名: Snack el bahri)
2日目	06:30	エル・ジャディーダ発 (ONCF)
	11:15	マラケシュ着
		買い物
	18:00	ジャマ・エル・フナ広場
		モロッコ料理
		(名: Mechoui)
3日目	08:00	マラケシュ発
		ここからツアー
	12:00	ワルザザート
	17:00	スコアラ着
		(宿: Le Jardin de Skoura)
4日目	08:00	スコアラ発
	12:00	トドラ渓谷
	17:00	メルズーガ着
5日目	09:00	メルズーガ発
	21:00	フェズ着 ここまでツアー
		(宿: Auberge de Jeunes de Fes)
6日目	10:00	フェズ散策
		メディナ
		買い物
	16:30	フェズ発 (ONCF)
	22:00	カサブランカ着
		(宿: Prince de Pari)
7日目	09:00	カサブランカ散策
	09:30	魚市場
		メディナ
	20:00	ホテル着
		(宿: Prince de Pari)
最終日	09:00	メディナ
	10:00	ハッサン2世モスク
	12:00	ムハンマド5世国際空港

サハラ砂漠

夕方、着いてすぐにラクダのいるところに案内されて乗ることができた。(ツアーに含まれている。)ラクダは想像していたより大きくて、立ち上がると高く、不安定で少し怖かったがすぐに慣れた。ラクダ使いの方が先頭で引っ張ってくれてその流れに任せて砂漠を進み、所々でその方が写真を撮ってくれる。

砂漠の上で見る夕日は綺麗だった。砂漠もさらさらで気持ちがよかった。砂漠といえば星空のイメージだが今回は風が強く、月が大きかったこともあって、星が見えず少し残念だった。月の満ち欠けを考えて行くことをおすすめする。夕食後にはキャンプファイヤーをしながら、その宿の方たちがジャンベと歌を披露してくれて楽しい夜になった。

旅行中に起こったまさかのハプニング

今回の旅行計画を立てる際、セネガルからモロッコへの行き方を少し悩んでいた。直行便が存在するが、乗り継ぎの方が安かったからだ。しかし私は以前、同任地ケベメールの先輩隊員がヨーロッパ旅行に行った際、乗り継ぎ便で往復ともにロストバゲージを起こしたことを聞いていた。そのようなことはなかなか起きないが、面倒なことになりたくないと思った私は少しお金を出して直行便に乗ることにした。

モロッコに着いた。友人は先に到着して、ターミナルのなかで待っていた。急いで合流しなければと思っていたが、なかなか荷物受け取り所のレーンが動きださない。しばらく待っていると、私より遅く着いた便の荷物が届き、抜かれていった。おかしいと感じた同じ便の乗客たちとサービスセンターに行くと、まさかの全員分の荷物をセネガルに忘れたという。ロストバゲ

ージが起こってしまった。あれだけ警戒して直行便を選んだのにまさかだった。その後サービスセンターに行った際、あるセネガル人男性に出会った。彼は私と一緒に話を聞いて、私の話を伝える手助けをしてくれたのだった。そのおかげで手続きは完了して、やっと友人と合流することができた。しかし私は着替えを何も持っていなかった。私のモロッコ旅行はものをそろえるところから始まった。3日目にして、自ら最寄の空港へ向きキャリーバッグが返ってきたのだった。嬉しかった。そして旅行はあつという間に過ぎ、セネガルに帰る時がきた。ロストバゲージの可能性があると覚悟していた。キャリーバッグとリュックサックを預けに行った。なんと次はオーバーブッキングを起こしていたのだった。予定していた時間の5時間後の飛行機に乗るよう言われた。私はトラブルメーカーな

のかと自分を疑った。しかしまだ予定の便に乗れる可能性があるとも言われ、しばらく待っているとチケットを渡され、乗れることになった。一安心して予定していた飛行機に乗り込んだ。セネガルに着陸し、荷物受け取り所へ向かった。なんとそこで空港で助けてくれたセネガル人にまた出会った。おしゃべりをしながら待っていると、彼の荷物が届いた。今度は届いたね、なんて話していると私のキャリーバッグがちゃんと出てきた。よかったと思った。続けてリュックサックを待っていた。出てこない。残った荷物がレーンの上をぐるぐる回っていたが何度見ても私のものはない。まさかのまたロストバゲージが起こってしまった。疑っていたが、やはり私はトラブルメーカーだった。そして思った、私の任地ケベメールはロストバゲージが起こる何かがあるのかもしれないと。



オレンジジュースをその場で作る様子（1杯5DH=50円）

ぜひ1度は飲んでほしい

もし、友人がモロッコに旅行に行くと言ったら私は1番にオレンジジュースをおすすめしたい。

大前提としてこの国はフルーツがすべて安くて美味しい。桃も食べたが、1つ100円もしなかったと思う。このオレンジジュース、価格の安さもさることながら、味が抜群に美味しい。どこの地域に行ってもあるこのオレンジジュースは注文するとそこから店員さんがオレンジを贅沢にいくつも取り出し、そして切っ、慣れた手つきで機械にかけていく。それを見ているのも目が楽しい。

飲んでみると分かるが、人生で1番美味しいオレンジジュースだと胸を張って言えるだろう。

モロッコ料理 タジン



野菜のタジン

モロッコに行ったら欠かせないタジンと呼ばれる鍋料理。時間がかかるのかと思っていたが、どの店でもそれほど待たずに出てくる。お肉がホロホロになるまで煮込まれていて柔らかく美味しい。野菜のタジンも味が染みっていて食べやすい。

そしてタジンを注文すると一緒に出てくるのがホブスという円形の少し硬いパン。タジンの具と一緒にパンでつまんで食べるのが現地の食べ方と聞き挑戦してみたが、少し難しかった。



ミートボールのタジン

モロッコ旅行を振り返って

私はこの旅行に行くまであまりモロッコに興味がなかった。友人に誘われたからというだけの理由だった。

しかし、行ってみるとモロッコには魅力的な建物、自然がたくさんあり、いつの間にか楽しくなっていた。ここまで触れてこなかったが、モロッコ人も愉快な人たちだった。話しかけてくれるときの笑顔が優しく、私たちにも伝わる冗談を言うようなユーモアを持ち合わせていた。さらに、発展した町には英語もフランス語も話せる人がいるが、少し田舎に行くともどちらも通じない町やスペイン語が多く話されている町もあり、興味深かった。英語もフランス語も通じない町でタクシーに乗るのは大変だったが、現地の人のおかげで目的地にたどり着くことができた。

発展途上国と聞いていたが見た目はそうは思えないものだった。駅は東京駅並みに広く、綺麗で使いやすかった。インフラも整っており、セネガルで活動している私は少し悔しさを感じた。

またモロッコ隊員の方にも会えて、現地のお話を聞きながら案内してもらえたことでより楽しむことができた。お互いに活動やそれぞれの国の抱える問題などを知ることで刺激をもらうこともできた。

最後にプランを見てもらうと分かるが移動が多かった。行きたいところを制覇するために作ったプランだ。モロッコを南回りに巡ったのだが、飽き性の私には合っていたと感じる。各地でゆっくりしたい方は時間をもう少し長く取ったプランを立てることをおすすめ。くれぐれもロストバゲージとオーバーブッキングにはご注意ください。(編集：鳥淵)

ハッサン2世モスク (カサブラン) Day8



ツアー途中の買い物の様子 (メルズーガ近く) Day4



サボテンをその場で剥いてくれる屋台(エル・ジャディーダ) Day1



ホテルから見た夕日 (スコーラ) Day3



にありがとうございます。



ご愛読ありがとうございます。編集委員一同、心から感謝申し上げます。またご協力していただいた皆様、誠にありがとうございました。

2018 年度 1 次隊 菊池彩香

2018 年度 3 次隊 藤井 亨

2018 年度 3 次隊 鳥淵楓央

2018 年度 3 次隊 松尾祐希

2018 年度 1 次隊 谷島和典

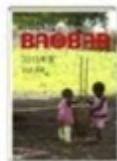


また次号で

お会いしましょう☺

BAOBAB は

電子版でも！



電子書籍の配信サイト「パブー」で62号（2013）以降のBAOBABを
ぜんぶ無料ダウンロードすることができちゃう！



<http://p.booklog.jp/users/senegal>

